

## りゅうこつ座

昔「アルゴ船座」という船の星座が存在しました。トレミーの48星座の1つにも数えられていました。後に、ほ座、らしんばん座、とも座、りゅうこつ座の4つに分けられ現在に至ります。「りゅうこつ」は竜骨：船の骨組みです。

「アルゴ船座」にはこんな物語があります。コルクスの国の宝物となっている金毛の羊（おひつじ座）の毛皮を取り戻すため、イオルコスの王子イアソンは旅に出かけます。その旅のために作られた船がアルゴ号です。イアソン王子はギリシア中の勇者たちに呼びかけ、50人の名だたる英雄たちが集まりました。その中には、後にふたご座となったカストルとポルックス、ヘルクレス座となったヘラクレス、こと座の物語の主人公、豎琴の名手オルフェウスも含まれていました。この旅は様々な困難をとまなう冒険になりました。

最大の難所はシュムプレガデスの岩を通り抜けることでした。この岩は、常に霧に包まれたボスポラス海峡の入口にあり、船が通ろうとすると両側の岩が閉じて船を砕くというものでした。イアソンたちは、途中で助けたビーネウスから授かった知恵を使いました。岩の手前で1羽の鳩を飛ばし、鳩を挟もうと閉じた岩が再び開いた瞬間に全速力で船をこいで岩の間を見事に通過したのです。ついにたどり着いたコルクスでは、現地の王女メディアの助言もあり、毛皮を取り戻し、国に帰ったということです。無事に帰ってきたイアソンはアルゴ船を海の神様ポセイドンに捧げました。後にポセイドンがこれを星座にしたと言われています。

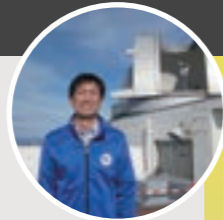
りゅうこつ座は、その星座名よりも主星「カノープス」の方がよく知られています。カノープスについては「今月の見どころ星どころ」をご覧ください。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）  
星座神話ガイドブック（沼澤茂美、脇屋奈々代著）

### 今月の見どころ星どころ

## カノープスを見て長生きに

文・浜松市天文台  
喜澤 俊輔



「カノープス」は恒星の名前です。りゅうこつ座のα星で、マイナス0.7等とおおいぬ座のシリウスに次いで全天で2番目に明るい恒星です。

浜松では、地平線すれすれに見え、緯度の高い福島県以北だと見ることが難しい星です。高度が低いので、昇ってから沈むまでの時間が短い星です。さらに、高度が低いと大気の影響を受けてオレンジ～赤色に見え、本来の明るさよりも暗く見えます。全天第2位の輝きを見るためには、かなり南方に行かなければならないということになります。

古くから「カノープスを見ることができると長生きする」「カノープスが見られると縁起がいい」という言い伝えがあります。中国では、この星を「南極老人星」と呼び、人の寿命をつかさどる寿老人の星だとされています。この星を目にすることができれば健康で長寿にあやかることができる、おめでたい星としていました。

さて、このカノープスですが、浜松市天文台の観望時間帯での見ごろは2月～3月です。オリオン座が南中した直後ぐらいからの観望がおすすめです。ですから、実際のところは秋の深夜ぐらいから観望することができます。南の低い空に雲がないことが条件になります。

この冬はぜひ長寿星カノープスに挑戦してみてください。



▲浜松市天文台から見た南の空

## 星空クイズ

冬の星座の代表ともいえるオリオン座。明るい星が多く、形も分かりやすいので見つけやすい星座です。赤く輝く1等星ベテルギウスは、大ヒットした歌のタイトルにもなっています。では、この「ベテルギウス」はどんな意味でしょうか。

ヒント：オリオン座の星座絵をご覧ください。



- A 赤い星
- B 強い者
- C わきの下

答えは中面へ

# 星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

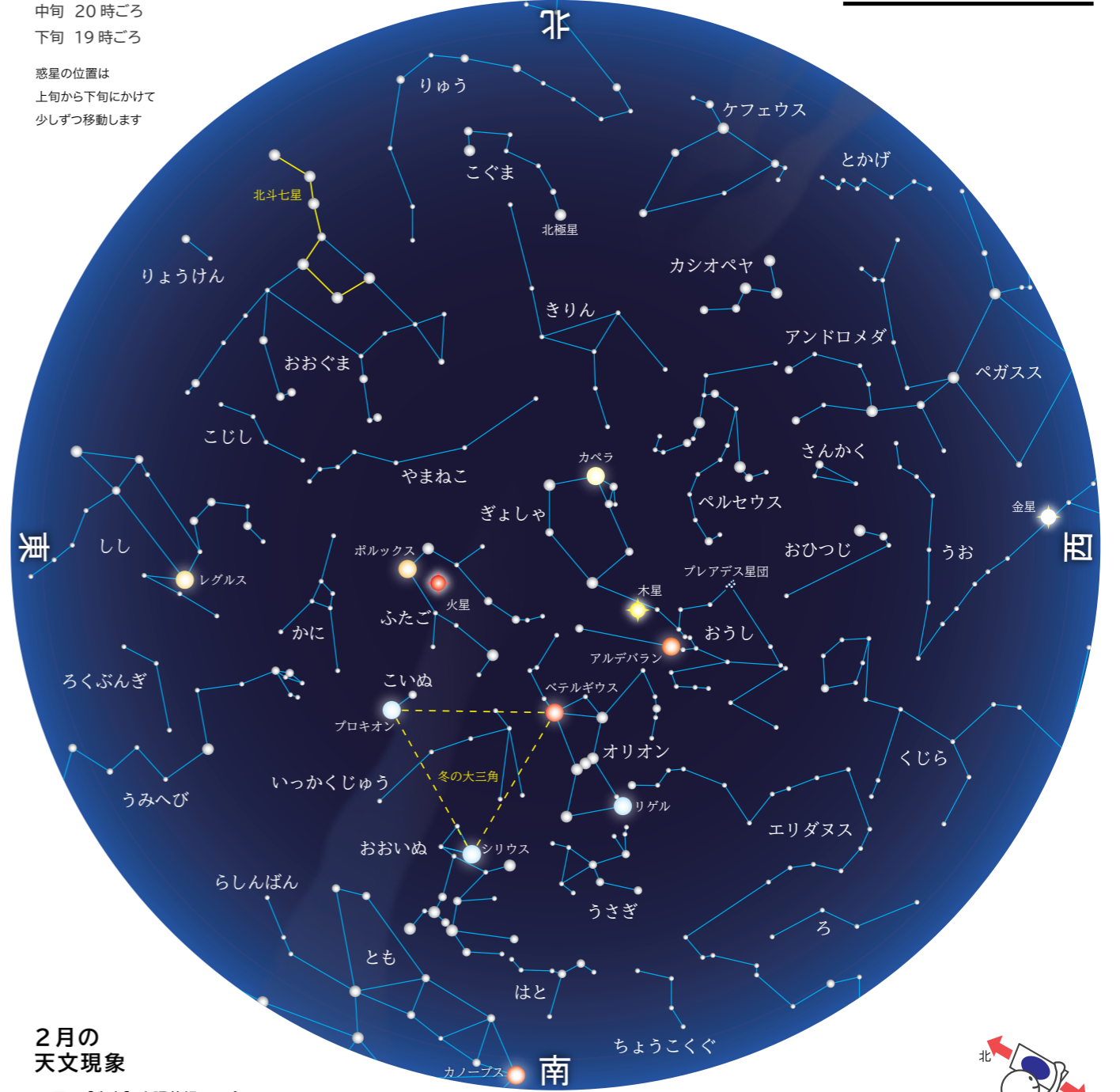
2025年2月

上旬 21時ごろ

中旬 20時ごろ

下旬 19時ごろ

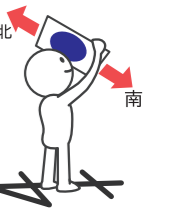
惑星の位置は  
上旬から下旬にかけて  
少しずつ移動します



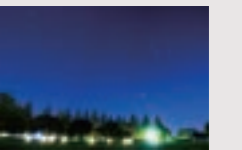
### 2月の天文現象

- 3日 【立春】 太陽黄経 315°
- 5日 上弦 ☾
- 12日 満月 ☽
- 18日 【雨水】 太陽黄経 330°
- 21日 下弦 ☾
- 28日 新月 ☾

上の星図は、空にかざして  
実際の方角と合わせてご覧ください。



2月3日は、立春です。暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きます。星を見るのは、やっぱり冬がいいですか？と質問をいただくことがあります。その季節ごとの星を楽しめるのでいつでもおすすめですよといつ、冬のよさを付け加えることにしています。①冬は晴れる日が多い。②空気が乾燥していて透明度が高い。③明るい星が多く見ごたえがある。マイナス面は寒さです。気温の低下に加え、遠州のからっ風が吹き付けます。星空を見るときは、いつものお出かけよりも1、2枚多く着込むことをおすすめします。





# 浜松市天文台

OK 天候不良開催 NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら



## イベント情報

星空観望会、太陽・昼間の星観望会は予約優先、その他の催しは事前予約制となります。天文台ウェブサイトよりお申込みください。

# 2/1・8・15・22

土



## 星空観望会 宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 18:30～20:30 会場 天文台屋上 申し込み 開催日3日前の水曜 13時から受付 (30分ごと先着20組)

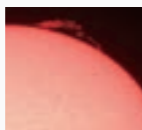


## 2/2 太陽・昼間の星観望会

日 黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や昼間に見える天体を観望します。



時間 14:00～16:00 会場 天文台屋上 申し込み 1/29(水) 13時から受付 (30分ごと先着20組)



## 2/9 双眼鏡講座

日 双眼鏡の構造や使い方を知る講座です。手軽に天体観望を始めませんか。



時間 18:30～19:30 会場 2F 講座室 / 天文台屋上 申し込み 2/5(水) 13時から受付 (先着5組)



## 2/14 親子天文教室

金 小学生親子向けの天文教室です。お話と観望がセットになっています。



時間 18:30～20:00 会場 2F 講座室 / 天文台屋上 申し込み 2/5(水) 13時から受付 (先着20組)



## 2/15 天文ミニ講座

土 星座と当夜の見えるところについて、星のソムリエ®がやさしくお話いたします。



時間 17:30～18:20 会場 2F 講座室 申し込み 2/12(水) 13時から受付 (先着10組)



裏面のクイズの答え：正解は、C わきの下

## 第43回 ゆめいっぱい小学生宇宙絵画展

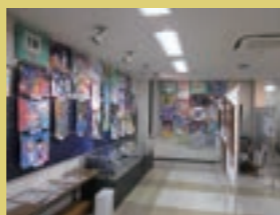
### 作品展示のご案内

第43回 ゆめいっぱい小学生宇宙絵画展には、たくさんの応募がありました。優秀賞と入選の作品を展示しています。子供たちの豊かな思いが表現された力作ばかりです。ぜひご覧ください。

展示期間 2025年 2月7日(金)～3月9日(日)

会場 浜松市天文台ホール (五島協働センター3F)

※詳細は浜松市天文台ウェブサイトをご覧ください



# 浜松科学館

## プラネタリウム番組情報

blog



| プラネタリウム  | プラネタリウム   | キッズプラネタリウム  | 大型映像   |
|--|---|---|--|
|  |   |   |  |
| <b>まわる星と、かわる季節</b><br>季節はなぜ変わるの？見える星座が変わるのはどうして？なんで夏があつくて、冬がさむいの？カギを握るのは地球の“回転”です。かわる季節と、まわる星の関係をご紹介します。 | <b>星空マルシェ</b><br>～解説員による星空解説・宇宙の話～<br>気軽に観られる生解説のプラネタリウムです。今夜の星空や話題の天文現象などをお話します。 | <b>きらきら☆ こんやのおほしさま</b><br>今夜空を見上げると、どんな星や星座が見えているかな？みんなでいっしょに星を見よう！ | <b>すみっコぐらし ひろい宇宙とオーロラのひかり</b><br>土日祝 13:15～13:55 / 15:50～16:30 |
| ～4/13 (土日祝は11:30～12:25も投映)   | 14:30～15:25 平日 15:50～16:30  | 土日祝 10:30～11:05   | 2/14 18:00～18:40 / 19:00～19:40                                 |

## 星と星をつないで・・・

column

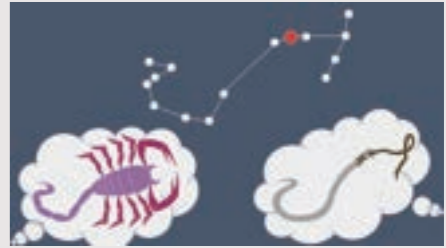
文・浜松科学館 天文チーム 島田真帆

今月 20 時頃には、南の空に冬の星座が見られます。オリオン座は、覚えやすい星の並びです。一列に並んだ 3 つの星を見つけたら、その周りを囲むように四角形が作れます。

紙面裏側「星空クイズ」欄の挿絵をご覧ください。みなさんは、オリオン座の星並びを見て、何のかたちを想像しますか？昔の人は、狩りをする人オリオンの姿を描きました。オリオンの右肩にはベテルギウスが、左足にはリゲルが輝いています。一列に並ぶ三つ星は、腰のベルトです。オリオンは両手を挙げているのですが、両手をつくる星は暗い星なので街中で見つけるのは難しいです。明るい星だけつないで、リボンや蝶々、砂時計などを思い浮かべる方も少なくはないでしょう。

実は、星座の絵には決まりはありません。星と星のつながり方も決まっていません。決まっているのは、場所と名前です。少し不思議に感じるかもしれませんね。さそり座を例にしてみましょう(図1)。星をつないで、ヨーロッパの昔の人はサソリを、ニュージーランドの昔の人は釣り針を描きました。しかし、あまりに自由に星座を作ってしまうと、同じ星座のことを話しても通じません。そこで、1928 年国際天文学連合によって、88 星座の場所と名前が決まりました。「静岡県浜松市」が、日本のどの範囲を指すのか分かるのと同じです。星座は、空の境界、その領域で名前が付いています(図2)。だから、領域の中で自由に星をつないでも、どんな絵を描いても良いのです。

当館では、冬休み期間中、来館された方々に、オリオン座の星をつないで自分だけの星座を描いてもらいました。上記で挙げたりボンや蝶々、砂時計だけでなく、うさぎ、ぞうきん、首飾り、ビール、サイコロ、雪だるま、魚、虫、アルファベット…など、ユニークで素敵な星座たちがたくさん集まりました。今月末まで当館 3 階ホワイエに掲示しています。みなさまのアイデア溢れる絵を見に、ぜひお越しください。



▲図1



▲図2 (画像:StellaNavigator/AstroArts)

